

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：平成30年9月5日

クルマ+ものづくりに熱中する学生たちが 小笠山総合運動公園（ふくろい）に集結！



第16回 全日本学生フォーミュラ大会 –ものづくり・デザインコンペティション–
主催：公益社団法人自動車技術会



車検(9/4~9/7)

技術検査ほか

車両製作について、安全性やシミュレーションに基づいて作られているか、車体部分から確認検査します。



静的審査(9/4~9/5)

デザイン

設計の適切さ、革新性、加工性、精確性、組立性、耐久性などについて審査します。



デザインファイナル

デザイン審査の上位チームを対象に最終審査をします。



コスト

年産1000台を想定したコストと車両の適合性を調査します。



プレゼンテーション

メーカー特許等に付いたビジネスプランを審査します。



動的審査(9/6~9/8)

アクセラレーション

0-75mの加速性能を競います。



オートクロス

直線・ターン・スラロームの複合コースでのベストタイムを競います。



スキッドパッド

目的の学コースによる優位性能を競います。



エンデュランス・効率

約20kmを走行し、走行性能、耐久性、燃費を競います。



最終日(9/8)

集合写真・交流会

大会に参加したチームメンバーが一室に会しての記念撮影です。(第15回大会参加者数：延べ18,832名)



表彰式

参加チームメンバー、スタッフにとって感動のフィナーレです。



【大会理念】

- ものづくりの機会を提供することによって、大学・高専等の工学教育活性化に寄与する。
- (1) 学生自らがチームを組み約1年間でフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを開発・製作することによって、学生がものづくりの本質やそのプロセスを学び、ものづくりの厳しさ・おもしろさ・喜びを実感する。
 - (2) 競技会では、走行性能だけでなく、車両のマーケティング、企画・設計・製作、コスト等のものづくりにおける総合力を競う。
 - (3) 学生に対しては自己能力向上の場、企業に対しては将来を担う有能な人材発掘の場を提供する。

平成30年8月31日 静岡新聞(朝刊)

学生フォーミュラ「15位以内目標」

大会に向け団結する学生ら
＝袋井市役所

9月4日に開幕する第16回全日本学生フォーミュラ大会(自動車技術会主催)に挑む静岡理工科大(袋井市)チームの壮行会が29日、市役所で開かれた。

大会は国内外の学生が自ら構想から製作まで手掛けたフォーミュラカーの性能を競う。小笠山総合運動公園で4日から8日にかけて開催する。ICV(ガソリンエンジン車)とEV(電気自動車)の2クラスに中国やインドネシアをはじめとした海外チームも含む98チームが参加する。

壮行会では学生が車両を紹介し、原田英之市長らから激励を受けた。昨年の総合25位を超える総合15位以内を目

静岡理工科大、地元開催に意欲



指すといい、チームリーダーの4年の梅いのないように出し切りたい」と言
杉浦聖大さん(21)は「1年間の成果を葉に力を込めた。